

株 主 各 位

東京都品川区西五反田五丁目 5 番15号  
**浜井産業株式会社**  
取締役社長 武 藤 公 明

## 第96回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

さて、当社第96回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申しあげます。

なお、本年も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、株主総会へのご来場を見合わせていただき、書面またはインターネットによる議決権行使をお願い申しあげます。

お手数ながら後記の「株主総会参考書類」をご検討いただき、3頁から4頁の「ご案内」をご参照のうえ、2022年6月28日（火曜日）午後5時30分までに議決権を行使くださいますようお願い申しあげます。

敬具

### 記

1. 日 時 2022年6月29日（水曜日）午前10時
  2. 場 所 東京都品川区西五反田五丁目 5 番15号  
当社本店 2 階会議室
  3. 目的事項  
報告事項
    1. 第96期（2021年4月1日から2022年3月31日まで）事業報告の内容及び連結計算書類の内容ならびに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
    2. 第96期（2021年4月1日から2022年3月31日まで）計算書類の内容報告の件
- 決議事項
- |       |                            |
|-------|----------------------------|
| 第1号議案 | 定款一部変更の件                   |
| 第2号議案 | 取締役（監査等委員である取締役を除く。）5名選任の件 |
| 第3号議案 | 監査等委員である取締役3名選任の件          |

#### 4. 招集にあたっての決定事項

- (1) 代理人により議決権を行使される場合は、議決権を有する他の株主の方1名を代理人として株主総会にご出席いただけます。ただし、代理権を証明する書面的ご提出が必要となりますのでご了承ください。
- (2) 議決権の不統一行使をされる場合には、株主総会の3日前までに、議決権の不統一行使を行う旨とその理由を書面により当社にご通知ください。

以 上

◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

◎当社は軽装（クールビズ）にて実施させていただきますので、株主のみなさまにおかれましても軽装でご出席くださいますようお願い申し上げます。

◎株主総会参考書類ならびに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（<https://www.hamai.com>）に掲載させていただきます。

総会ご出席者へのおみやげは用意しておりませんので、あらかじめご了承くださいますようお願い申し上げます。

#### 【新型コロナウイルス感染症の感染防止に伴う対応について】

##### 1. 当社の対応

- (1) 出席役員及び運営スタッフは、検温を含め、あらかじめ体調を十分確認し、マスクを着用したうえで参加することといたします。
- (2) 株主総会の議事は、円滑な進行となるよう努めてまいります。

##### 2. 株主様へのお願い

- (1) 本総会へのご出席を検討されている株主様におかれましては、株主総会開催日までの感染状況や、ご自身の体調に十分ご留意いただき、ご出席を見合わせていただくことも検討くださいますようお願い申し上げます。
- (2) 本総会にご出席の場合は、会場設置の消毒液の使用と、マスクの着用にご協力ください。ご協力いただけない場合は、ご出席をお断りする場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- (3) 受付にて体温チェックをさせていただきます。体調不良と見受けられた場合、ご出席をお断りする場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- (4) 会場の座席間隔を広く確保するため、用意できる座席数が限られております。そのため、当日ご来場いただいても入場いただけない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

なお、新型コロナウイルス感染拡大の状況次第では、株主総会への対応内容等を変更する場合がございます。その場合は、当社ウェブサイト（<https://www.hamai.com>）に変更内容を掲載させていただきますので、ご確認くださいますようお願い申し上げます。

## 議決権行使についてのご案内

次のいずれかの方法により、議決権を行使くださいますようお願い申し上げます。

### 書面



同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、行使期限までに到着するようにご返送ください。

### インターネット



当社指定の議決権行使ウェブサイト (<https://soukai.mizuho-tb.co.jp/>) にアクセスしていただき、行使期限までに賛否をご入力ください。

### 株主総会ご出席



同封の議決権行使書用紙を株主総会当日、会場受付にご提出ください。

※新型コロナウイルス感染防止の観点から、ご来場いただいても入場いただけない場合がございます。

詳細は次頁をご参照ください。

#### 行使期限

2022年6月28日(火)  
午後5時30分までに到着

#### 行使期限

2022年6月28日(火)  
午後5時30分までに行使

#### 株主総会開催日時

2022年6月29日(水)  
午前10時

## インターネットにより議決権を行使される場合の注意点

- 同封の議決権行使書用紙に記載の議決権行使コード及びパスワードをご利用のうえ、画面の案内に従って議案に対する賛否をご入力ください。
- パスワードは、議決権を行使される方が株主様ご本人であることを確認するための重要な情報ですので、大切にお取り扱いください。
- 議決権行使ウェブサイトをご利用いただく際のプロバイダへの接続料金及び通信事業者への通信料金は株主様のご負担となります。
- 議決権行使書用紙の郵送とインターネットによる方法の双方で議決権を行使された場合は、インターネットによる議決権の行使を有効とさせていただきます。
- インターネットにより複数回にわたり議決権を行使された場合は、最後に行使された内容を有効とさせていただきます。

# インターネットによる議決権行使のご案内

## QRコードを読み取る方法 「スマート行使」

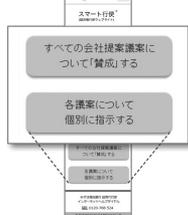
議決権行使コード及びパスワードを入力することなく議決権行使ウェブサイトへログインすることができます。

- 1 同封の議決権行使書用紙に記載された「スマートフォン用議決権行使ウェブサイトログインQRコード」を読み取ってください。



※QRコードは株式会社みずほの登録商標です。

- 2 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。



「スマート行使」での議決権行使は1回に限り可能です。

議決権行使後に行先内容を変更する場合は、お手数ですがPC向けサイトへアクセスし、議決権行使書用紙に記載の「議決権行使コード」・「パスワード」を入力してログイン、再度議決権行使をお願いいたします。

※QRコードを再度読み取っていただくと、PC向けサイトへ遷移できます。

## 議決権行使コード・パスワードを入力する方法

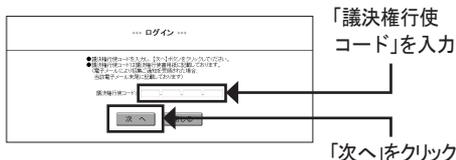
議決権行使ウェブサイト

<https://soukai.mizuho-tb.co.jp/>

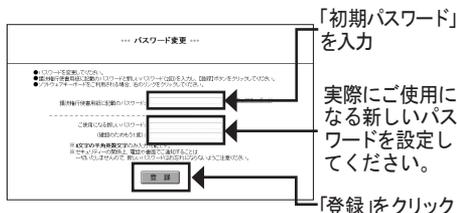
- 1 議決権行使ウェブサイトへアクセスしてください。



- 2 議決権行使書用紙に記載された「議決権行使コード」をご入力ください。



- 3 議決権行使書用紙に記載された「パスワード」をご入力ください。



- 4 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。

インターネットによる議決権行使でパソコンやスマートフォン、携帯電話の操作方法などが不明な場合は、右記にお問い合わせください。

みずほ信託銀行 証券代行部

インターネットヘルプダイヤル  
受付時間  
年末年始を除く午前9時～午後9時

(添付書類)

## 事業報告

(2021年4月1日から  
2022年3月31日まで)

### 1. 企業集団の現況に関する事項

#### (1) 事業の経過及びその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、前連結会計年度に続き、新型コロナウイルス感染症の変異株による感染拡大やその後の一時収束の動きに翻弄されつつも、年度の後半には、ウイズコロナによる経済活動の正常化に向けて動き出しました。一方で、原油をはじめとする資源価格の高騰が消費者物価の上昇を招き、景気の見通しには慎重な見方が広がりました。また、世界経済においても、中国の経済成長鈍化懸念や、東西諸国間における情勢の緊迫化により、世界的な景気の先行きは依然として不透明な状況が続きました。

こうした状況の下、当社グループは引き続き、新規市場の開拓や販売力の強化、並びに製造工程の改善活動などによる生産性向上に積極的に取り組み、業績は順調に推移しました。

その結果、当連結会計年度の売上高は6,475百万円（前年同期比12.2%増）、営業利益は527百万円（前年同期比23.3%増）、経常利益は509百万円（前年同期比26.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は571百万円（前年同期比32.7%増）となりました。

また、セグメント別では、当社グループは、1工場で作業機械の製造を行い、販売するという単一事業を展開しております。

そこで、セグメント別の「作業機械事業」としては、上記のとおりですが、以下「機種別」に市場動向、販売状況等を補足させていただきます。

##### ①ラップ盤

デジタル関連の設備投資は、国内外の半導体シリコンウエーハや光学関連部品加工用設備の売上が堅調に推移しました。中でも、直径300ミリ半導体シリコンウエーハ加工用設備の需要が極めて旺盛なうえ、パワー半導体ウエーハ加工用設備も増加しております。しかしながら、これら受注の多くは翌期以降の売上に寄与するため、売上高は2,640百万円（前年同期比24.3%減）となりました。

## ②ホブ盤、フライス盤

ホブ盤では、国内外の釣具関連向の需要が堅調に推移したうえ、中国市場において、各種減速機や電動工具に使われる歯車加工用設備や電気自動車向の歯車加工用設備にも需要が出てきており、これらの売上が大幅に増加いたしました。フライス盤においては、国内外の需要が伸び悩んだものの、あわせて売上高は2,033百万円（前年同期比146.0%増）となりました。

## ③部品、歯車

半導体シリコンウエーハ加工用の消耗部品が堅調に推移したうえ、ガラスハードディスク基板をはじめとする光学関連部品加工用の部品・消耗部品の販売も増加し、売上高は1,801百万円（前年同期比23.6%増）となりました。

当事業年度の期末配当金につきましては、上記の業績並びに財務体質の強化と今後の事業拡大に必要な内部留保の充実等を勘案したうえで、2022年5月13日開催の取締役会決議により、1株につき15円とさせていただきます。

今後とも株主のみなさまのご支援に報いるための配当等の実施を常に念頭に置き、業績の進展に取り組んでまいりますので、引き続きご支援のほど、お願い申し上げます。

次に機種別受注高及び売上高は下記のとおりであります。

### 機種別受注高及び売上高

機 種	受 注 高	売 上 高
ラ ッ プ 盤	6,013,690	2,640,420
ホ ブ 盤	1,827,825	1,972,594
フ ラ イ ス 盤	42,270	60,570
部 品	2,225,777	1,777,657
歯 車	24,899	23,885
合 計	10,134,461	6,475,127

## (2) 設備投資の状況

当連結会計年度に実施した設備投資の総額は81百万円であり、その主なものは、工具、器具及び備品51百万円であります。

## (3) 資金調達の状況

当社は資金の機動的かつ安定的な調達に向け、2019年9月に取引金融機関5行と総額1,466百万円のシンジケーション方式によるコミットメント契約を締結いたしました。

なお、当連結会計年度末における借入実行残高はありません。

#### (4) 対処すべき課題

当社グループの中長期的に取り組むべき課題は、以下のとおりであります。

##### ①販売体制及びテクニカルサービス体制の拡充

現在、新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響で渡航が困難な状況が続いておりますが、インド、台湾、ベトナム等のアジア市場、及び北米市場等の新しいマーケットにおいて、テクニカルサービス体制の構築を含む有力代理店網の組成に鋭意取組中であります。

##### ②お客様のニーズに沿った新製品の開発、及び既存製品の改良改善

新型ホブ盤、モジュール型ホブ盤、自動装置付金属部品加工用ファイングラインディングマシン等の新製品を電気自動車部品、ロボット関連部品、減速機向歯車等の加工用として引き続き、積極的な販売展開をはかってまいります。

##### ③海外営業部門・技術部門の人材拡充と営業・生産現場における人材の育成

各部門への人材拡充は、継続して実施しております。併せて技術・技能（含むノウハウ）の伝承、若手人材の育成についても継続して、積極的に取り組んでまいります。

##### ④適正な製品売価への見直し、及び原価低減諸施策の実施による収益力の向上

適正な製品売価への見直しを適宜適切に実施しており、また、原価低減諸施策につきましても、「工場体質改善プロジェクト」の一環として常時取り組んでおり、一定の成果が上がってきております。今後は、現在取組中の上記活動をより強力で推進し、一層の生産性向上に取り組み、安定した収益を確保できるように注力してまいります。

##### ⑤環境への負荷の少ない企業活動を通じた企業価値の向上

環境ISOの活動を展開中でありますが、CSR活動にもつなげて拡大することによって、企業価値の向上を実現してまいります。また、SDGsやESGについても課題の設定、取組の強化に努めてまいります。

以上の取組を通じて、一層の業績進展、企業価値向上に努めてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともより一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## (5) 財産及び損益の状況の推移

### ①企業集団の財産及び損益の状況

区 分	第93期 (2019年3月期)	第94期 (2020年3月期)	第95期 (2021年3月期)	第96期 (当連結会計年度) (2022年3月期)
受 注 高 (千円)	8,662,246	3,717,821	4,857,595	10,134,461
売 上 高 (千円)	5,667,938	5,595,819	5,771,025	6,475,127
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	156,204	349,981	430,243	571,075
1株当たり当期純利益 (円)	45.38	101.69	125.01	171.94
総 資 産 (千円)	6,622,527	8,251,800	7,121,125	7,484,415
純 資 産 (千円)	845,730	1,211,095	1,765,032	2,079,832

- (注) 1. 「1株当たり当期純利益」は、期中平均発行済株式数から期中平均自己株式数を控除して算出しております。
2. 2018年10月1日付で普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を実施しております。第93期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。
3. 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第96期の期首から適用しており、第96期の財産及び損益の状況については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

## ②当社の財産及び損益の状況

区 分	第93期 (2019年3月期)	第94期 (2020年3月期)	第95期 (2021年3月期)	第96期 (当事業年度) (2022年3月期)
受 注 高 (千円)	8,625,316	3,708,787	4,853,912	10,073,215
売 上 高 (千円)	5,631,009	5,586,784	5,767,342	6,413,880
当 期 純 利 益 (千円)	146,239	371,930	414,690	511,272
1 株 当 たり 当 期 純 利 益 (円)	42.49	108.06	120.49	153.93
総 資 産 (千円)	6,579,733	8,223,915	7,079,953	7,338,271
純 資 産 (千円)	811,201	1,200,705	1,738,386	1,982,444

- (注) 1. 「1株当たり当期純利益」は、期中平均発行済株式数から期中平均自己株式数を控除して算出しております。
2. 2018年10月1日付で普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を実施しております。第93期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第96期の期首から適用しており、第96期の財産及び損益の状況については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

## (6) 重要な親会社及び子会社の状況

### ①親会社との関係

該当事項はありません。

### ②重要な子会社の状況

会社名	資本金又は出資金	当社の出資比率	主要な事業内容
哈邁機械商貿（上海）有限公司	50,000千円	100%	工作機械事業
ハマイエンジニアリング株式会社	10,000千円	100%	工作機械事業

## (7) 主要な事業内容

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社及び連結子会社（哈邁機械商貿（上海）有限公司、ハマイエンジニアリング株式会社）の計3社で構成され、ラップ盤、ホブ盤、フライス盤、レンズ加工機、マシニングセンタ、その他の工作機械の製造販売を行っております。

事業分野においては、工作機械に関する単一の事業分野であり、主要な製品の用途及び販売先主要業種は、次のとおりであります。

中国上海の哈邁機械商貿（上海）有限公司は、中国市場において当社の製品販売と修理等のテクニカルサービス業務を行っております。

なお、ハマイエンジニアリング株式会社は、現在、休眠会社であります。

機種	用途	販売先主要業種
ラップ盤	精密研磨加工	半導体ウエーハ・ガラスハードディスク基板・水晶振動子・各種光学部品材料等の加工業及び製造業、自動車部品加工業
ホブ盤	歯車切削加工	自動車部品加工業、減速機・電動工具・鈎具・OA機器等の製造業
フライス盤	鋼材等の加工	金型製造業
レンズ加工機	レンズ加工	デジタルカメラ・カメラ付携帯電話向等のレンズ製造業及び加工業
マシニングセンタ	金型加工・自動車等の部品加工	金型製造業、自動車部品加工業

## (8) 主要な営業所及び工場等

### ① 当社

名 称	所在地
本 社	東京都
東 京 営 業 部	東京都
海 外 営 業 部	東京都
東日本営業部	栃木県
大 阪 支 店	大阪府
足 利 工 場	栃木県

### ② 子会社

会 社 名	所在地
哈邁機械商貿（上海）有限公司	中 国
ハマイエンジニアリング株式会社	東京都

## (9) 従業員の状況

### ① 企業集団の従業員の状況

従 業 員 数	前連結会計年度末比増減
110名(42名)	2名増(1名増)

- (注) 1. 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員数であります。
2. 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。
3. 臨時従業員には、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。

### ② 当社の従業員の状況

従 業 員 数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
99名(42名)	3名増(1名増)	40.7歳	15.7年

- (注) 1. 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員数であります。
2. 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。
3. 臨時従業員には、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。

(10) 主要な借入先

借 入 先	借 入 額
	千円
株 式 会 社 み ず ほ 銀 行	594,494
株 式 会 社 商 工 組 合 中 央 金 庫	304,004
株 式 会 社 日 本 政 策 金 融 公 庫	236,160
株 式 会 社 足 利 銀 行	211,065
株 式 会 社 三 菱 U F J 銀 行	156,237
株 式 会 社 三 井 住 友 銀 行	102,281
み ず ほ 信 託 銀 行 株 式 会 社	76,546
株 式 会 社 り そ な 銀 行	61,354
明 治 安 田 生 命 保 険 相 互 会 社	23,000

## 2. 会社の株式に関する事項（2022年3月31日現在）

- (1) 発行可能株式総数 8,000,000株
- (2) 発行済株式の総数 3,273,208株（自己株式189,192株を除く。）
- (3) 株主数 4,047名
- (4) 大株主

株 主 名	持 株 数	持株比率
	株	%
株 式 会 社 F U J I	320,900	9.80
明 治 安 田 生 命 保 険 相 互 会 社	246,000	7.51
浜 井 産 業 取 引 先 持 株 会	164,800	5.03
株 式 会 社 み ず ほ 銀 行	132,300	4.04
武 藤 公 明	100,860	3.08
フ ァ ナ ッ ク 株 式 会 社	75,000	2.29
J F E エ ン ジ ニ ア リ ン グ 株 式 会 社	72,000	2.19
株 式 会 社 K M エ ン タ プ ラ イ ズ	50,000	1.52
越 智 通 武	34,900	1.06
松 井 証 券 株 式 会 社	27,900	0.85

(注) 上記のほか当社所有の自己株式189,192株があります。なお、持株比率は自己株式を控除して算出しております。

### (5) その他株式に関する重要な事項

当社は、経営環境の変化に対応できる機動的な資本政策の遂行、資本効率の改善、及び株主への利益還元を目的として、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、2021年5月24日開催の取締役会決議により、2021年5月25日から2021年8月31日の間、市場取引にて、168,200株の自己株式を総額199,888千円で取得いたしました。

### 3. 会社役員に関する事項

#### (1) 役員の氏名等

地 位	氏 名	担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況
代表取締役社長	武 藤 公 明	
常 務 取 締 役	山 畑 喜 義	管理担当兼経理部長
取 締 役	小野塚 隆	足利工場長兼技術本部長
取 締 役	柏 瀬 高 志	営業本部長
取 締 役 (常勤監査等委員)	森 田 淳一郎	
取 締 役 (監 査 等 委 員)	政 木 道 夫	弁護士
取 締 役 (監 査 等 委 員)	青 木 眞 徳	

- (注) 1. 代表取締役社長武藤公明氏は、当社連結子会社である哈邁机械商貿(上海)有限公司の董事長を兼職しておりましたが、2021年10月11日付で退任いたしました。また同日付で同社の董事に就任いたしました。
2. 取締役森田淳一郎氏、取締役政木道夫氏及び取締役青木眞徳氏は、社外取締役であります。
3. 当社は、監査等委員の監査・監督機能を強化し、取締役(監査等委員を除く)からの情報収集及び重要な社内会議における情報共有並びに内部監査部門と監査等委員会との十分な連携を可能にするため、森田淳一郎氏を常勤の監査等委員として選定しております。
4. 取締役森田淳一郎氏、取締役政木道夫氏及び取締役青木眞徳氏は株式会社東京証券取引所が指定を義務付ける一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員であります。

#### (2) 責任限定契約の内容の概要

当社と各取締役(監査等委員)は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく責任の限度額は、法令が規定する額としております。

### (3) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が負担することになる損害賠償金、訴訟費用等につき、総額1億円までの限度で損害を当該保険契約により填補することとしております。ただし、被保険者の職務の執行の適正性が損なわれないようにするため、当該被保険者が法令違反の行為であることを認識して行った行為に起因して生じた損害の場合には填補の対象とならないなど、一定の免責事由があります。

当該役員等賠償責任保険契約の被保険者は当社取締役7名及び執行役員(従業員資格)3名の計10名であり、すべての被保険者について、その保険料を全額当社が負担しております。

### (4) 当事業年度に係る役員の報酬等

#### ① 役員の個人別の報酬等の内容に係る決定方針に関する事項

##### 1) 役員報酬等の決定方針

役員報酬等の決定方針は、取締役会からの報酬案の諮問に対する、任意の指名・報酬諮問委員会の答申に基づき、取締役報酬等は取締役会の決議により、取締役(監査等委員)報酬等については監査等委員会の決議により決定しております。

##### 2) 役員報酬等の基本的考え方

当社の役員報酬等については、企業業績と企業価値の継続的な向上に資することを基本とし、企業理念及び企業の存立目的の実現を達成しうる優秀な人材の確保・維持が可能となり、当社役員に求められる役割と責任に見合った報酬水準ならびに報酬体系となるように制度設計をしております。

##### 3) 役員報酬等の内容

取締役報酬は基本報酬(賞与を含む。)のみであり、年額150百万円以内であります。また、取締役(監査等委員)報酬は基本報酬のみであり、年額50百万円以内であります。

基本報酬の水準は外部専門機関の調査による他社水準を参考に、任意の指名・報酬諮問委員会に諮問のうえ、答申を受け、その答申内容を踏まえ取締役会、監査等委員会にて決定しております。また、賞与は、当社の連結業績に応じて、各取締役の役位、担当部門の業績を勘案し、任意の指名・報酬諮問委員会に諮問のうえ、答申を受け、その答申内容を踏まえ取締役会にて決

定しております。

4) 役員の個人別の報酬等の内容が当該方針に沿うものであると取締役会が判断した理由

役員の個人別の報酬等の内容の決定に当たっては、任意の指名・報酬諮問委員会が原案に基づいて決定方針との整合性を含めた多角的な検討を行い、取締役会に答申しており、取締役会も基本的にその答申を尊重しているため、決定方針に沿うものであると判断しております。

② 役員の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

当社取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬の額は、2016年6月29日開催の第90回定時株主総会において年額150百万円以内と決議しております（使用人兼務取締役の使用人分給与は含まない。）。当該定時株主総会終結時点の取締役（監査等委員である取締役を除く。）の員数は3名です。

当社監査等委員である取締役の報酬の額は、2016年6月29日開催の第90回定時株主総会において年額50百万円以内と決議しております。当該定時株主総会終結時点の監査等委員である取締役の員数は4名です。

③ 役員の報酬等の総額等

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	業績連動報酬等	非金銭報酬額等	
取締役 (監査等委員 である取締役 を除く。) (うち社外取 締役)	88,200 (-)	88,200 (-)	-	-	4 (-)
監査等委員で ある取締役 (うち社外取 締役)	19,200 (19,200)	19,200 (19,200)	-	-	3 (3)

(注) 上記の他、第81回定時株主総会決議に基づく役員退職慰労金制度廃止に伴う打ち切り支給額の未払残高が、取締役2名に対して1,710千円（社外取締役に對するものはありません。）あります。

## (5) 社外役員に関する事項

### ① 当事業年度における主な活動状況

区 分	氏 名	主な活動状況
社外取締役 (常勤監査等 委員)	森 田 淳一郎	当事業年度に開催された取締役会12回のうち、12回に出席し、また、当事業年度に開催された監査等委員会13回のうち、13回に出席している他、その他の社内の重要会議にも出席し、業務執行を常にモニタリングすると同時に、経営上のリスク管理及び監査上の観点からの発言を行っております。
社外取締役 (監査等委員)	政 木 道 夫	当事業年度に開催された取締役会12回のうち、12回に出席し、また、当事業年度に開催された監査等委員会13回のうち、13回に出席している他、法令遵守の観点及び企業社会全般にかかわる法令上の観点から当社の経営上有用な指摘、意見を述べております。
社外取締役 (監査等委員)	青 木 眞 徳	当事業年度に開催された取締役会12回のうち、12回に出席し、経営上の疑問点等を明らかにするため適宜質問し、意見を述べております。また、当事業年度に開催された監査等委員会13回のうち、13回に出席し、監査結果についての意見交換、監査に関する重要事項等の協議を行っております。

(注) 書面決議による取締役会の回数は除いております。

### ② 社外取締役が果たすことが期待される役割に関して行った職務の概要

社外取締役には業務執行者から独立した客観的な立場で経営のチェック及び監視機能を果たしていただく他、法律面、経営管理面及び生産管理面等の様々な専門分野における豊富な知識から、当社の問題点等の指摘及び指導をしていただく役割を期待しておりますが、当社取締役会において当該視点からの極めて有益な発言をいただくとともに、社外取締役のみで構成される監査等委員会から取締役会に対して「経営の提言」を提示いただいております。内部統制上の問題点があると思われる場合には、担当業務執行取締役に内容を質すなど、経営のチェック及び監視機能を十分に果たしていただいております。

#### (6) 指名・報酬諮問委員会の活動状況

指名・報酬諮問委員会は、2021年6月に第96期の取締役の報酬に関する審議を1回、2022年3月に新任取締役候補者・再任取締役候補者の選任及び執行役員の選任についての審議を1回開催し、その結果を取締役に答申しております。

#### (7) 取締役会の実効性評価

当社は、当社「コーポレートガバナンス・コード」補充原則4-11-3に定めるとおり、毎年、各取締役の自己評価等の方法により、取締役会全体の実効性について分析・評価を行うこととしております。当事業年度においては、各取締役へのアンケート調査を実施し、その結果を2022年3月開催の取締役会にて報告、今後の課題や経営戦略について議論を行いました。その結果、取締役会の運営については、従来同様、議題に対する適切な意見の表明等がなされ活発な議論が行われていることが確認されました。一方でさらなる成長に向けた長期的な経営戦略の議論をさらに充実させていくことが必要であるとの認識をあらためて共有することができました。当社は、本実効性評価を踏まえて、取締役会の実効性をより高めていくべく不断の努力をしております。

#### 4. 会計監査人の状況

##### (1) 会計監査人の名称

八重洲監査法人

##### (2) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

	報酬等の額
会計監査人としての報酬等の額	27,500千円
当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	27,500千円

- (注) 1. 会計監査人の報酬等に監査等委員会が同意した理由は、監査等委員会は、会計監査人の報酬等の前提である監査計画の方針・内容、見積りの算出根拠等を確認し、当該内容について社内各部署から必要な報告を受け、検証した結果、当社の会計監査を実施するうえで、妥当なものと判断したため、会計監査人の報酬等の額について同意いたしました。
2. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、上記金額にはこれらの合計額を記載しております。

##### (3) 責任限定契約の内容の概要

当社と会計監査人は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく責任の限度額は、法令が規定する額としております。

##### (4) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

会計監査人が会社法第340条第1項各号のいずれかに該当すると認められる場合には、監査等委員会は監査等委員全員の同意により、会計監査人を解任いたします。

この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

また、当社が定める「会計監査人の評価基準」に基づき評価した結果、再任が否決された場合の他、会計監査人が会社法・公認会計士の法令に違反・抵触した場合及び会計監査人の職務遂行の適正が確保されないと判断した場合には、監査等委員会の決議により会計監査人の不再任を株主総会の会議の目的とすることといたします。

## 5. 会社の体制及び方針

### (1) 職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況

当社の内部統制システムは、「内部統制システムの整備に関する基本方針」に基づき、社長を委員長とする「内部統制委員会」が設置され、内部統制システムの構築を統括・推進し、内部監査室が補佐・検証する体制としております。

この「内部統制システムの整備に関する基本方針」は、2006年5月に取締役会の決議により制定以来、整備の進捗に合わせて内容の加除・改訂を行っております。

具体的には、「会社法の一部を改正する法律」（平成26年法律第90号）及び「会社法施行規則等の一部を改正する省令」（平成27年法務省令第6号）が2015年5月1日より施行されたことに伴い、それ以前の2015年4月27日開催の当社取締役会の決議により、法令の趣旨を踏まえて、当社グループの業務の現状に即した見直しにより、実効性のあるものへと改訂しております。

また、2016年6月の監査等委員会設置会社への移行に伴い、2016年8月29日開催の当社取締役会にて、体制移行に伴う必要な条文の修正も実施済みであります。

#### ①取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は、取締役・従業員を含めた行動規範として創業以来の経営理念を盛り込んだ「基本方針」があり、これの遵守を徹底することが極めて重要であると考えております。

取締役に関しては、「取締役会規則」が定められており、取締役会を毎月1回開催することを原則に、必要に応じ随時開催し、取締役間の意思疎通をはかるとともに、相互に業務執行を監督することにより、その適切な運営が確保されております。

加えて、必要に応じ、外部の法律等の専門家を起用して法令・定款違反行為を未然に防止する体制を構築しております。

また、当社は監査等委員会設置会社であり、取締役の職務執行については、「監査等委員会規則」に則り監査等委員会の定める監査の方針及び分担にしたがい、各監査等委員の監査対象になっております。

取締役が他の取締役の法令・定款違反行為を発見した場合には、直ちに監査等委員会及び取締役会に報告し、その是正をはかる体制としております。

当社の「コンプライアンス基本規程」の遵守は当然ながら取締役も対象として

おり、これらの報告行為を義務化しております。

#### ②取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務執行に係る情報については、法令等の定めに基づき、適切かつ確実に保存・管理することとし、10年間は閲覧可能な状態を維持しております。

また、重要な意思決定経緯及び報告に関して、文書の保存及び廃棄に関する「文書管理規程」を制定し、実施しております。

#### ③損失の危険の管理に関する規程その他の体制

1) 当社は、業務執行に係る主要なリスクとして、「単一の製造拠点」「製造物責任」「知的財産権の侵害」「情報システム管理」「経済状況の激変」「財務制限条項抵触」等のリスクを認識しており、その把握と管理については、個々の分掌担当部署にて責任を持って対応することとしております。

加えて、取締役会での集中的検討ならびに内部監査室による指摘・改善指導等も推進しております。

また、日常の活動の中で対応できる課題については、当該部署の「業務計画」の項目に挙げ、PDCAサイクルをもってリスクの減少に努めております。

2) 経営危機につながる不測の事態が発生した場合には、「緊急対応規程」に基づき、社長を本部長とする対策本部を設置し、全社を挙げて対応する体制となっております。

#### ④取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

1) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制の基礎として、取締役会を毎月1回開催することを原則に、必要に応じ随時開催するものとし、当社の経営方針及び経営戦略に係る重要事項については、「総合連絡会議」等での検討を踏まえ、社長、主要役員ならびに担当役員による審議を経て、取締役会にて執行決定を行っております。

2) 取締役会の決定に基づく業務執行については、「組織・分掌ならびに権限規程」においてそれぞれの責任者及びその責任、執行手続きの詳細を定めております。

また、年度ごとの「経営計画」の策定により経営目標の明確化をはかり、さらに各部の「業務計画」にブレークダウンして、PDCAサイクルをもって、推進しております。

#### ⑤使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

1) コンプライアンス体制の基礎として、創業来の経営理念をあらわした「基本

方針」ならびに「コンプライアンス基本規程」を制定しております。

なお、必要に応じ、コンプライアンス研修を行っております。

2) 内部監査部門として、執行部門から独立した「内部監査室」を設置しており、コンプライアンス体制の整備・維持、ならびに評価を行うこととしております。

また、金融商品取引法及びその他の法令に基づき、財務報告の適正性を確保するために、必要かつ適切な内部統制システムを整備し、運用しております。

3) 取締役は、当社における重大な法令違反その他コンプライアンスに関する重要な事実を発見した場合には、直ちに監査等委員会に報告するとともに、遅滞なく取締役会において報告するものとしております。

同様の運用を執行役員も執行役員会に対して行っております。

4) 法令違反その他のコンプライアンスに関する事実についての社内報告体制として、外部の指定弁護士を情報受領者とする「内部通報規程」を制定しており、その運用について漸次、定着をはかっていくものであります。

5) 監査等委員会は、当社の法令遵守体制及び内部者通報システムの運用に問題があると認めるときは、意見を述べるとともに、改善策の策定を求めることができるとしております。

⑥当社ならびにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

1) グループ会社の経営管理については、「関係会社管理規程」に則り、親会社の諸規程を準用すると同時に、各社固有の業務については、新たな規程を整備する等適切に対応しており、コンプライアンスに関しても、親会社の管理体制と同様の管理運用を実施中であります。

2) 当社の監査等委員会は、連結経営の観点より、グループ全体の監査の実効性を確保するため、内部監査室との連携をとりながら、適宜、グループ各社の監査等委員会と情報及び意見の交換を行っております。

⑦監査等委員会の職務を補助すべき使用人に関する体制と当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

当社は監査等委員会専属の使用人を配置しておらず、それに係る規程類も制定しておりませんが、監査等委員会からの要請がある場合、すべての部署の担当者が対応することとしております。

また、監査等委員会補助者が必要である場合には、直ちに専属の使用人を選任する予定であります。

その場合、監査等委員会補助者の評価は監査等委員会が行い、異動等については監査等委員会の同意を得たうえで、取締役会にて決定することとします。

⑧取締役及び使用人が監査等委員会に報告するための体制その他の監査等委員会への報告に関する体制

1) 取締役及び使用人は、会社に重大な損害を与える事項が発生、または発生する恐れがあるとき、取締役及び使用人による違法または不法な行為を発見したとき、その他重要な業務執行内容について、監査等委員会に遅滞なく報告することとしております。

また、子会社の取締役、監査等委員、執行役、業務を執行する社員、会社法第598条第1項の職務を行うべき者その他これらのものに相当する者及び使用人またはこれらの者から報告を受けた者が監査等委員会に報告するための体制も整備しております。

上記の報告をした者が報告をしたことを理由として不利な取り扱いを受けないことを、内部監査室及び監査等委員会で監視する体制としております。

さらに、監査等委員会は、いつでも必要に応じて、子会社も含めた取締役及び使用人に対して、報告を求めることができるとしております。

2) 事業部門を統括する取締役は、監査等委員会と協議のうえ、定期的または不定期に、担当する部門のリスク管理体制について報告することとしております。

3) 監査等委員は、社内におけるあらゆる会議に参加でき、また、社内回付のすべての「協議書」「決裁書類等」を閲覧できるとしてしておりますので、主要なる業務執行内容については、報告がなされる体制ができております。

⑨監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

1) 取締役及び使用人の監査等委員会監査に対するさらなる理解を深め、監査等委員会監査の環境を整備するよう努めることとします。

監査等委員の職務の執行について生ずる費用の前払または償還の手続その他の職務の執行について生ずる費用または債務の処理に関しては、監査等委員の要請に応じて必要の都度、即時に対応することとしております。

2) 代表取締役との定期的な意見交換会の開催、内部監査室及び会計監査人との連携等により適切な意思疎通をはかり、効果的な監査業務を遂行することといたします。

⑩反社会的勢力を排除するための体制

1) 当社は、健全な会社経営のため、反社会的勢力とは決して関わりを持たず、

日頃から外部専門機関との連携・情報交換を密にし、不当な要求に対しては、組織として法的に毅然とした対応をすることを基本方針としております。

2) 具体的体制としては、対応窓口を総務部、総務部長に集約し、代表取締役、関係取締役、内部監査室等との社内連携体制を構築しております。

また、主として総務部により、外部専門機関（顧問弁護士、所轄警察署、特防連等）との連携を密にし、情報の一元管理ならびに共有をしております。

### (2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社及び子会社のリスク管理体制は、内部監査室による四半期毎の「モニタリング結果報告」及び期末の「内部統制・内部監査報告書」を確認し、当社グループ内において期間中の法令違反、内部通報等のコンプライアンス及びリスク関連事項がないことを確認しております。

また、当社では、大規模自然災害、新型コロナウイルス感染症等の感染拡大等のリスクに備え、事業継続計画の一環として、「緊急対応規程」を制定しており、不測の事態が発生した場合には、必要に応じ社長を本部長とする対策本部を設置、全役職員が丸一となって危機に対応し、被害の発生を防止し、損害の拡大を最小限に留める体制をとることとしております。

### (3) 会社の支配に関する基本方針

#### ①基本方針の内容

上場会社である当社の株式は、株式市場を通じて多数の株主、投資家のみなさまによる自由な取引が認められており、当社の株式に対する大規模な買付等がなされた場合においても、一概に否定するものではなく、最終的には株主のみなさまの自由な意思により判断されるべきであると考えます。

しかしながら、このような大規模な買付行為や買付提案の中には、明らかに濫用目的によるものや、株主のみなさまに株式の売却を事実上強要するおそれのあるもの、その目的等から見て企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、対象会社の取締役会や株主のみなさまが買付の条件等について検討し、あるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないものなど、不適切なものも少なくありません。

このような大規模な買付行為や買付提案を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方としては、経営の基本理念、企業価値のさまざま

な源泉、当社を支えるステークホルダーとの信頼関係を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を中長期的に確保、向上させる者でなければならぬと考えております。

したがって、企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれのある不適切な大規模買付提案またはこれに類似する行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えます。

## ②基本方針の実現に資する取組の概要

### 1) 企業価値・株主共同の利益の向上に向けた取組

当社は、創業来の歯車製造機械づくりで築いてきた精密加工技術を活かし、高精度の加工機械を電子・電機関連業界を中心としたお客様へ、ニーズに即応して提供していくことを基本方針としております。

具体的には、(i)ゆるぎない品質の精密機械で産業の発展に貢献する。(ii)すべての事業活動において、環境保全に積極的に取り組む。(iii)法令の遵守を徹底するとともに、ステークホルダーのより高い満足を得ていく。の3点を掲げ、中長期的な発展・成長を実現するとともに、社会環境や安全性に十分配慮し、より一層の企業価値向上を目指してまいりたいと考えております。

### 2) コーポレート・ガバナンス強化による企業価値・株主共同の利益の向上に向けた取組

当社は、株主をはじめ顧客、取引先、地域社会、従業員すべてのステークホルダーから信頼されご支持いただける企業となるため、コーポレート・ガバナンスの充実が経営の透明性、健全性の確保の観点から、極めて重要であると認識し、経営上の重要課題として位置づけて、積極的に取り組んでおります。

その一環として、2016年6月29日開催の第90回定時株主総会において監査等委員会設置会社へ移行いたしました。

現在、取締役会は、取締役総数7名のうち、3名が監査等委員である取締役(全3名が独立社外取締役)という構成であり、意思決定の迅速化及び監査等委員会による監査・経営監督機能の一層の強化がはかられ、取締役会全体の実効性がより高まっております。

また、当社は、取締役及び執行役員等の経営幹部の選解任、報酬等の承認に係る取締役会の機能の独立性・客観性及び説明責任を強化するため、社外取締役を主要な構成員とする任意の指名・報酬諮問委員会を2018年11月に設置しております。当事業年度の指名・報酬諮問委員会は、新任取締役候補者・再任取締役候補

者の選任についての審議を1回、役員報酬等に関する審議を1回開催し、その結果を取締役に答申しております。加えて、監査等委員会と内部監査室との連携強化も、引き続き実施しております。

当社は、以上のような体制面の強化をはじめ、今後も、取締役会の監督機能を高めるべく必要な施策を適宜適切に実行していくため、毎年、アンケート調査による自己評価等の方法により、取締役会全体の実効性について分析・評価も行っております。今後も、コーポレートガバナンス・コードの遵守等を通じて、コーポレート・ガバナンスの一層の充実をはかり、それを経営に活かして中長期的な企業価値向上に結実させてまいります。

③基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止する取組の概要

当社は基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止する取組としての「当社株式の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）」（以下、「本プラン」といいます。）について、2020年6月26日開催の当社第94回定時株主総会において、株主のみなさまのご承認を得て継続しております。

本プランの対象となる当社の株式の大規模買付行為とは、特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする、またはそのような目的であると合理的に疑われる当社株券等の買付行為、もしくは結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為をいい、係る買付行為を行う者を「大規模買付者」といいます。

本プランにおける大規模買付時における情報提供と検討時間の確保等に関しては、次のとおり一定のルール（以下、「大規模買付ルール」といいます。）を設けており、大規模買付ルールによって、1）事前に大規模買付者が当社取締役会に対して必要かつ十分な情報を提供し、2）必要情報の提供完了後、対価を現金のみとする公開買付による当社全株式の買付の場合は最長60日間、またはその他の大規模買付行為の場合は最長90日間を当社取締役会による評価・検討等の取締役会評価期間として設定し、取締役会評価期間、また、株主検討期間を設ける場合には取締役会評価期間と株主検討期間が経過した後に大規模買付行為を開始するというものです。

本プランにおいては、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合には、原則として当該大規模買付行為に対する対抗措置は講じません。

ただし、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しなかった場合、遵守しても当該大規模買付行為が当社に回復し難い損害をもたらすなど、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと判断する場合には、必要かつ相当な範囲で新株予約権の無償割当等、会社法その他の法律及び当社定款が認める検討可能な対抗措置をとることがあります。

このように対抗措置をとる場合、その判断の客観性及び合理性を担保するために、取締役会是对抗措置の発動に先立ち、当社の業務執行を行う経営陣から独立している社外取締役（監査等委員であるものを含みます。）または社外有識者から選任された委員で構成する独立委員会に対して対抗措置の発動の是非について諮問し、独立委員会は対抗措置の発動の是非について、取締役会評価期間内に勧告を行うものとします。

当社取締役会は、対抗措置を発動するか否かの判断に際して、独立委員会の勧告を最大限尊重するものとします。

なお、本プランの有効期限は2023年6月に開催される当社第97回定時株主総会の終結の時までとします。

本プランの詳細につきましては、インターネット上の当社ウェブサイト (<https://www.hamai.com>) に掲載しております。

#### ④ 具体的取組に対する当社取締役の判断及びその理由

本プランは、大規模買付行為が行われる際に、株主のみなさまが判断し、あるいは取締役会が代替案を提案するために必要十分な情報や時間を確保する等、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し向上させるための取組であり、基本方針に沿うものであります。

また、本プランは、1) 買収防衛策に関する指針において定める三原則を充足していること及び経済産業省に設置された企業価値研究会が2008年6月30日に発表した報告書「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」及び東京証券取引所が2015年6月1日に公表した「コーポレートガバナンス・コード」の「原則1－5いわゆる買収防衛策」の内容も踏まえたものとなっていること、2) 当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上の目的をもって継続されていること、3) 株主総会での承認により発効しており、株主意思を反映するものであること、4) 独立性の高い社外者のみから構成される独立委員会の判断を重視するものであること、5) デッドハンド型買収防衛策やスローハンド型買収防衛策でないこと等の理由から、基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共

同の利益を損なうものでなく、かつ、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないと考えております。

#### (4) 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、安定的な経営基盤の確保に努めるとともに、株主のみなさまへの利益還元を経営の重要な課題と位置づけております。

配当につきましては、企業体質の強化及び今後の事業展開等を勘案したうえで、「業績・収益状況に対応した配当の実施」を目指しております。

内部留保金につきましては、財務体質の強化及び将来にわたる安定した株主利益の確保のため、事業の拡大、生産性向上のための投資及び厳しい経営環境に勝ち残るための新技術、新製品開発のため等に、有効活用していきたいと考えております。

なお、自己株式の取得につきましては、当社の成長、発展のためのより良い資本政策を検討し、時宜にかなった決定をしております。

このような方針のもと、現状の財務状況を踏まえ、当事業年度の年間配当金につきましては、期末配当にて1株につき15円とさせていただきます。

今後とも株主のみなさまのご支援に報いるための配当等の実施を常に念頭におき、業績の進展に取り組んでまいりますので、引き続きご支援のほど、お願い申し上げます。

---

(注) 本事業報告中における金額は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 連結貸借対照表

(2022年3月31日現在)

(千円未満切捨表示)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	千円		千円
<b>流 動 資 産</b>	<b>4,605,881</b>	<b>流 動 負 債</b>	<b>4,857,142</b>
現金及び預金	1,397,661	支払手形及び買掛金	2,056,408
受取手形及び売掛金	1,378,485	短期借入金	159,713
商品及び製品	38,520	1年内返済予定の長期借入金	1,408,150
仕掛品	1,600,655	未払法人税等	16,322
原材料	17,931	製品保証引当金	31,293
その他	172,626	前受金	904,618
<b>固 定 資 産</b>	<b>2,878,534</b>	その他	280,636
<b>有形固定資産</b>	<b>2,286,903</b>	<b>固 定 負 債</b>	<b>547,440</b>
建物及び構築物	438,437	長期借入金	197,280
機械装置及び運搬具	366,911	繰延税金負債	25,641
土地	1,389,338	退職給付に係る負債	287,962
建設仮勘定	35,579	資産除去債務	34,395
その他	56,636	その他	2,160
<b>無形固定資産</b>	<b>11,470</b>	<b>負 債 合 計</b>	<b>5,404,583</b>
その他	11,470	<b>純資産の部</b>	
<b>投資その他の資産</b>	<b>580,159</b>	<b>株 主 資 本</b>	<b>1,868,573</b>
投資有価証券	374,810	資 本 金	100,000
その他	220,307	資 本 剰 余 金	928,930
貸倒引当金	△14,958	利 益 剰 余 金	1,070,207
		自 己 株 式	△230,564
		その他の包括利益累計額	211,259
		その他有価証券評価差額金	198,942
		為替換算調整勘定	12,316
		<b>純 資 産 合 計</b>	<b>2,079,832</b>
<b>資 産 合 計</b>	<b>7,484,415</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>7,484,415</b>



## 連結株主資本等変動計算書

(2021年4月1日から  
2022年3月31日まで)

(千円未満切捨表示)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
	千円	千円	千円	千円	千円
当 期 首 残 高	100,000	928,930	499,132	△30,401	1,497,661
当 期 変 動 額					
親会社株主に帰属する当期純利益	—	—	571,075	—	571,075
自己株式の取得	—	—	—	△200,163	△200,163
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	—	—	—	—	—
当期変動額合計	—	—	571,075	△200,163	370,912
当 期 末 残 高	100,000	928,930	1,070,207	△230,564	1,868,573

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	為 替 換 算 定 調 整 勘	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計	
	千円	千円	千円	千円
当 期 首 残 高	265,994	1,376	267,371	1,765,032
当 期 変 動 額				
親会社株主に帰属する当期純利益	—	—	—	571,075
自己株式の取得	—	—	—	△200,163
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△67,051	10,939	△56,112	△56,112
当期変動額合計	△67,051	10,939	△56,112	314,799
当 期 末 残 高	198,942	12,316	211,259	2,079,832

## 連 結 注 記 表

### 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

#### 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数及び主要な連結子会社の名称

すべての子会社を連結しております。

連結子会社の数 2社

主要な連結子会社の名称

哈邁機械商貿（上海）有限公司

ハマイエンジニアリング株式会社

#### 2. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、哈邁機械商貿（上海）有限公司の決算日は12月31日であります。

連結計算書類の作成にあたっては、同日現在の計算書類を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

#### 3. 会計方針に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### ① 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法

（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

###### ② デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

###### ③ 棚卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有する棚卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

評価方法 製品、仕掛品 個別法

商品、原材料 主として先入先出法

##### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

###### ① 有形固定資産（リース資産を除く）

主として定率法によっております。

但し、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、2007年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌連結会計年度から5年間で均等償却する方法によっております。

###### ② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

但し、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（2～5年）に基づく定額法によっております。

- ③リース資産
  - 1) 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっております。
  - 2) 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。
- ④長期前払費用  
定額法によっております。
- (3) 重要な繰延資産の処理方法
  - ①社債発行費  
支出時に全額費用処理しております。
  - ②株式交付費  
支出時に全額費用処理しております。
- (4) 重要な引当金の計上基準
  - ①貸倒引当金  
貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
  - ②製品保証引当金  
製品の将来予想される瑕疵担保費用の支出に備えるため、過去の売上実績、保証実績を基礎に将来の保証見込額を加味して計上しております。
- (5) その他連結計算書類作成のための重要な事項
  - ①退職給付に係る会計処理の方法  
当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。
  - ②重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準  
外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。  
なお、在外子会社の資産及び負債は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。
  - ③重要なヘッジ会計の方法
    - 1) ヘッジ会計の方法  
繰延ヘッジ処理によっております。  
金利スワップについては、特例処理の要件を満たしている場合は、特例処理を採用しております。  
また、為替予約が付されている外貨建金銭債権債務等については、振当処理を行っております。
    - 2) ヘッジ手段とヘッジ対象  
                    (ヘッジ手段)                    (ヘッジ対象)  
                    金利スワップ                    借入金の利息

為替予約 外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引

3) ヘッジ方針

外貨建取引の為替相場の変動リスクを回避する目的で為替予約取引を行い、また、借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っております。

4) ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とを比較し、両者の変動額等を基礎にして判定しております。

なお、金利スワップの特例処理の要件を満たしている場合は、その判定をもって有効性の判定に代えております。

また、為替予約については、ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、継続して為替の変動による影響を相殺する効果が見込まれるため、ヘッジの有効性の判定は省略しております。

④重要な収益及び費用の計上基準

当社グループは、工作機械の製造、販売及び修理等のサービスの提供を行っております。

工作機械及び関連する部品の販売においては、契約条件に照らし合わせて顧客が製品等に対する支配を獲得したと認められる時点が契約の履行義務の充足時期であり、顧客への製品等の出荷時、据付時、貿易上の諸条件等に基づき収益を認識しております。

工作機械に関連するサービスについては、役務の提供の完了時点が履行義務の充足時期であり、当該時点において収益を認識しております。

## 会計方針の変更に関する注記

(会計基準等の改正等に伴う会計方針の変更)

1. 「時価の算定に関する会計基準」等の適用

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、連結計算書類に与える影響はありません。

また、「金融商品に関する注記」において、金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項等の注記を行うこととしました。

2. 「収益認識に関する会計基準」等の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、一部の取引について、従来は製品の出荷時点で収益を認識しておりましたが、顧客が当該製品に対する支配を獲得したと認められる時点で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、当連結会計年度の期首の利益剰余金に与える影響はありません。

なお、当連結会計年度の損益に与える影響もありません。

また、表示方法に変更はありません。

## 表示方法の変更に関する注記

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めておりました「保険解約返戻金」及び「営業外費用」の「その他」に含めておりました「為替差損」は、重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。

## 会計上の見積りに関する注記

(繰延税金資産の回収可能性)

- 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額（繰延税金負債） 25,641千円  
なお、繰延税金資産78,265千円と繰延税金負債103,907千円を相殺した結果、繰延税金負債25,641千円を計上しております。
- 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報  
当社グループは、繰延税金資産について回収可能性を慎重に検討したうえで、当該資産の回収が不確実と考えられる部分に対して評価性引当額を計上しております。回収可能性の判断においては、将来の課税所得見込額と実行可能なタックス・プランニングを考慮して、将来の税金負担額を軽減する効果を有すると考えられる範囲で繰延税金資産を計上しております。

将来の課税所得見込額は今後の業績等により変動するため、課税所得の見積りに影響を与える要因が発生した場合は、回収可能額の見直しを行い繰延税金資産の修正を行うため、当期純損益額が変動する可能性があります。

(製品保証引当金)

- 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額 31,293千円
- 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報  
当社グループは、顧客仕様の製品を販売しており、顧客に納品する製品は要求精度を満たした状態で出荷しますが、精密機械であるため、使用する環境等により納入当初には予測不能な不具合が発生する可能性があります。そのため、顧客に納品した製品に対して、将来予想される瑕疵担保費用を見積るため、過去の売上実績及び保証実績を基礎に一定の比率を算定し、また、既に保証費用の発生が見込まれるものにつきましては、過去の単価実績を用いて予想される部品費及び工数を見積り、その見積り額が一定の比率で算定した製品保証引当金の額を超える場合は、その差額を個別に算定しております。これらの見積りは過去の実績を基礎に算定していることから、相対的に不確実性が高くなります。

製品保証引当金の算定に係る前提条件の見積りは合理的であると判断しております。ただし、これらの見積りには不確実性が含まれるため、予測不能な前提条件の変化等により、実際の保証費用が見積りと異なり、結果として翌連結会計年度の連結計算書類に影響を与える可能性があります。

## 連結貸借対照表に関する注記

### 1. 担保に供している資産及びこれに対応する債務

#### (1) 担保に供している資産

建物及び構築物	434,935千円
機械装置及び運搬具	68千円
土地	1,389,338千円
その他	47,945千円
計	1,872,287千円

#### (2) 上記に対応する債務

短期借入金	116,416千円
1年内返済予定の長期借入金	943,498千円
計	1,059,915千円

### 2. 有形固定資産の減価償却累計額

3,539,734千円

### 3. 前受金のうち、契約負債の金額は、以下のとおりであります。

契約負債	904,296千円
------	-----------

## 連結株主資本等変動計算書に関する注記

### 1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	3,462,400	—	—	3,462,400

### 2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	20,732	168,460	—	189,192

#### (変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

2021年5月24日の取締役会決議による自己株式の取得	168,200株
単元未満株式の買取りによる増加	260株

### 3. 配当に関する事項

#### (1) 配当金支払額

該当事項はありません。

#### (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年5月13日 取締役会	普通株式	利益剰余金	49,098	15.00	2022年3月31日	2022年6月30日

### 4. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 金融商品に関する注記

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、現状、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については主に銀行借入及び社債発行によっております。

デリバティブは、借入金の金利変動リスク及び為替の変動リスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

#### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。

また、外貨建の営業債権は、為替の変動リスクに晒されていますが、一部、先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。

借入金及び社債のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金及び社債は設備投資及び長期運転資金の調達を目的としたものであります。

変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されていますが、このうち長期のものの一部は、支払金利の変動リスクを回避し、支払利息の固定化をはかるために、デリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、外貨建営業債権に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約と借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引であります。

なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性評価の方法等については、前述の「連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご参照ください。

#### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

##### ①信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社グループは、経理規程にしたがい、営業債権について、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、一定金額以上の営業債権については、信用状況を毎月把握する体制をとっております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

##### ②市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社グループは、外貨建の営業債権について、一部、先物為替予約を利用してヘッジしております。

なお、為替相場の状況により、輸出に係る予定取引により確実に発生すると見込まれる外貨建営業債権に対する先物為替予約を行っております。

また、当社グループは、一部の借入金に係る支払利息の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

投資有価証券（株式）については、定期的の時価を把握し、当社グループの有価証券の減損処理ルールに則り判定し、減損等の兆候があった場合は、取締役会に報告しております。

デリバティブ取引については、デリバティブ取引運用管理規程に則り取引を行い、定期的の有効性判定を行ったうえで、その取引実績等につき四半期ごとに、取締役会に報告しております。

##### ③資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）の管理

営業債務、借入金及び社債は、流動性リスクに晒されていますが、月次で資金繰計画を作成し、手元流動性を十分確保するなどの方法により管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては、市場価格に基づく価額の他、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。

当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

また、「2. 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(5) 信用リスクの集中

当連結会計年度の連結貸借対照表日現在における営業債権のうち特定の大口顧客に対するものはありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2022年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。また、現金は注記を省略しており、預金、受取手形及び売掛金、支払手形及び買掛金並びに短期借入金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、記載を省略しております。

(単位:千円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
投資有価証券			
その他有価証券	374,810	374,810	—
資産計	374,810	374,810	—
長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む)	1,605,430	1,603,229	△2,200
負債計	1,605,430	1,603,229	△2,200
デリバティブ取引	—	—	—

(注1) デリバティブ取引に関する事項

デリバティブ取引

- (1) ヘッジ会計が適用されていないもの  
該当事項はありません。
- (2) ヘッジ会計が適用されているもの  
該当事項はありません。

(注2) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	1,397,661	—	—	—
受取手形及び売掛金	1,378,485	—	—	—
合計	2,776,146	—	—	—

## (注3) 短期借入金及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	159,713	—	—	—	—	—
長期借入金	1,408,150	38,880	38,880	38,880	38,880	41,760
合計	1,567,863	38,880	38,880	38,880	38,880	41,760

## 3. 金融商品の時価の適切な区分ごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

## (1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

(単位:千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券 その他有価証券 株式	374,810	—	—	374,810
資産計	374,810	—	—	374,810

## (2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

(単位:千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む)	—	1,603,229	—	1,603,229
負債計	—	1,603,229	—	1,603,229

(注) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

## 投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

## 長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む)

時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

## 賃貸等不動産に関する注記

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

## 収益認識に関する注記

### 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社グループは工作機械の製造と販売等を行っており、顧客に提供する財又はサービスの種類は以下のとおりであります。

(単位:千円)

	ラップ盤	ホブ盤	フライス盤	部品	歯車	合計
外部顧客への売上高	2,640,420	1,972,594	60,570	1,777,657	23,885	6,475,127

### 2. 収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等 3. 会計方針に関する事項 (5) その他連結計算書類作成のための重要な事項 ④ 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

### 3. 当連結会計年度及び翌連結会計年度以降の収益の金額を理解するための情報

#### (1) 契約負債の残高等

(単位:千円)

	当連結会計年度
顧客との契約から生じた債権 (期首残高)	1,352,529
顧客との契約から生じた債権 (期末残高)	1,378,485
契約負債 (期首残高)	373,674
契約負債 (期末残高)	904,296

契約負債は、主に、工作機械の支払条件に基づき顧客から受け取った前受金であります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。

当連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、369,256千円であります。また、当連結会計年度において、契約負債が530,622千円増加した主な理由は、工作機械の受注残高の増加に伴う前受金の増加によるものであります。

#### (2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループにおいては、個別の予想契約期間が1年を超える重要な取引がないため、実務上の便法を適用し、残存履行義務に関する情報の記載を省略しております。

## 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額 635円41銭

1株当たり当期純利益 171円94銭

## そ の 他 の 注 記

(財務制限条項に関する注記)

借入金のうち、1年内返済予定の長期借入金908,040千円のシンジケート・ローンについては財務制限条項がついており、当該条項は以下のとおりであります。

1. 2020年3月期決算以降、各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表上の純資産の部の金額を直前の決算期末日における連結の貸借対照表上の純資産の部の金額の70%以上に維持すること。
2. 2020年3月期決算以降、各年度の決算期の末日における単体の貸借対照表上の純資産の部の金額を直前の決算期末日における単体の貸借対照表上の純資産の部の金額の70%以上に維持すること。
3. 2020年3月期決算以降の決算期を初回の決算期とする連続する2期について、各年度の決算期における連結の損益計算書に示される経常損益が2期連続して損失とならないようにすること。なお、本号の遵守に関する最初の判定は、2021年3月決算期およびその直前の期の決算を対象として行われる。
4. 2020年3月期決算以降の決算期を初回の決算期とする連続する2期について、各年度の決算期における単体の損益計算書に示される経常損益が2期連続して損失とならないようにすること。なお、本号の遵守に関する最初の判定は、2021年3月決算期およびその直前の期の決算を対象として行われる。

なお、当連結会計年度において上記財務制限条項には抵触しておりません。

# 貸借対照表

(2022年3月31日現在)

(千円未満切捨表示)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	千円		千円
<b>流動資産</b>	<b>4,414,393</b>	<b>流動負債</b>	<b>4,832,339</b>
現金及び預金	1,261,306	支払手形	1,589,571
受取手形	449,818	買掛金	462,592
売掛金	900,452	短期借入金	159,713
商品及び製品	35,860	1年内返済予定の長期借入金	1,408,150
仕掛品	1,600,655	未払金	73,766
原材料	17,931	未払費用	150,334
前払費用	16,114	未払法人税等	1,625
その他	132,254	前受金	893,998
<b>固定資産</b>	<b>2,923,878</b>	預り金	5,908
<b>有形固定資産</b>	<b>2,281,682</b>	製品保証引当金	31,293
建物	434,935	その他	55,383
構築物	3,502	<b>固定負債</b>	<b>523,488</b>
機械及び装置	361,852	長期借入金	197,280
車両運搬具	0	繰延税金負債	25,740
工具、器具及び備品	56,474	退職給付引当金	263,911
土地	1,389,338	資産除去債務	34,395
建設仮勘定	35,579	その他	2,160
<b>無形固定資産</b>	<b>11,470</b>	<b>負債合計</b>	<b>5,355,827</b>
その他	11,470	<b>純資産の部</b>	
<b>投資その他の資産</b>	<b>630,724</b>	<b>株主資本</b>	<b>1,783,501</b>
投資有価証券	374,810	資本金	100,000
関係会社株式	10,000	資本剰余金	926,294
関係会社出資金	40,564	資本準備金	163,000
その他の他金	220,307	その他資本剰余金	763,294
貸倒引当金	△14,958	利益剰余金	987,771
		利益準備金	61,807
		その他利益剰余金	925,963
		繰越利益剰余金	925,963
		<b>自己株式</b>	<b>△230,564</b>
		評価・換算差額等	198,942
		その他有価証券評価差額金	198,942
<b>資産合計</b>	<b>7,338,271</b>	<b>純資産合計</b>	<b>1,982,444</b>
		<b>負債及び純資産合計</b>	<b>7,338,271</b>

# 損 益 計 算 書

(2021年4月1日から  
2022年3月31日まで)

(千円未満切捨表示)

科 目	金 額
	千円 <span style="float: right;">千円</span>
売 上 高	6,413,880
売 上 原 価	5,132,745
売 上 総 利 益	1,281,135
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	838,018
営 業 利 益	443,116
営 業 外 収 益	
受 取 利 息 及 び 受 取 配 当 金	10,908
物 品 売 却 益	7,763
保 険 解 約 返 戻 金	3,990
不 動 産 賃 貸 料	3,180
そ の 他	3,502
営 業 外 費 用	29,344
支 払 利 息	27,084
支 払 手 数 料	8,184
そ の 他	3,448
経 常 利 益	38,718
特 別 利 益	433,743
特 定 資 産 売 却 益	859
特 別 損 失	
特 定 資 産 除 却 損	20
税 引 前 当 期 純 利 益	434,581
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	1,625
法 人 税 等 調 整 額	△78,316
当 期 純 利 益	△76,690
	511,272

## 株主資本等変動計算書

(2021年4月1日から  
2022年3月31日まで)

(千円未満切捨表示)

	株 主 資 本						
	資 本 金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金		
		資 準 備 本 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	資 剰 余 本 金 計	利 準 備 金	そ の 他 利 益 剰 余 金	利 剰 余 益 金 計
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円
当 期 首 残 高	100,000	163,000	763,294	926,294	61,807	414,690	476,498
当 期 変 動 額							
当 期 純 利 益	—	—	—	—	—	511,272	511,272
自己株式の取得	—	—	—	—	—	—	—
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—
当期変動額合計	—	—	—	—	—	511,272	511,272
当 期 末 残 高	100,000	163,000	763,294	926,294	61,807	925,963	987,771

	株 主 資 本		評 価 ・ 換 算 差 額 等		純 資 産 計
	自 己 株 式	株 主 資 本 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	評 価 ・ 換 算 差 額 等 計	
	千円	千円	千円	千円	千円
当 期 首 残 高	△30,401	1,472,391	265,994	265,994	1,738,386
当 期 変 動 額					
当 期 純 利 益	—	511,272	—	—	511,272
自己株式の取得	△200,163	△200,163	—	—	△200,163
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	—	—	△67,051	△67,051	△67,051
当期変動額合計	△200,163	311,109	△67,051	△67,051	244,057
当 期 末 残 高	△230,564	1,783,501	198,942	198,942	1,982,444

## 個別注記表

### 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### 1. 資産の評価基準及び評価方法

##### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

###### ①子会社株式

移動平均法による原価法

###### ②その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

##### (2) デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

##### (3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有する棚卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

評価方法 製品、仕掛品 個別法

商品、原材料 先入先出法

#### 2. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。

但し、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、2007年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌事業年度から5年間で均等償却する方法によっております。

##### (2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

但し、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(2～5年)に基づく定額法によっております。

##### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

##### (4) 長期前払費用

定額法によっております。

#### 3. 引当金の計上基準

##### (1) 貸倒引当金

貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

##### (2) 製品保証引当金

製品の将来予想される瑕疵担保費用の支出に備えるため、過去の売上実績、保証実績を基礎に将来の保証見込額を加味して計上しております。

##### (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、

計上しております。

なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

#### 4. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

##### (1) 繰延資産の処理方法

###### ① 社債発行費

支出時に全額費用処理しております。

###### ② 株式交付費

支出時に全額費用処理しております。

##### (2) 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

##### (3) ヘッジ会計の方法

###### ① ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

金利スワップについては、特例処理の要件を満たしている場合は、特例処理を採用しております。

また、為替予約が付されている外貨建金銭債権債務等については、振当処理を行っております。

###### ② ヘッジ手段とヘッジ対象

(ヘッジ手段)

金利スワップ

為替予約

(ヘッジ対象)

借入金の利息

外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引

###### ③ ヘッジ方針

外貨建取引の為替相場の変動リスクを回避する目的で為替予約取引を行い、また、借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っております。

###### ④ ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とを比較し、両者の変動額等を基礎にして判定しております。

なお、金利スワップの特例処理の要件を満たしている場合は、その判定をもって有効性の判定に代えております。

また、為替予約については、ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、継続して為替の変動による影響を相殺する効果が見込まれるため、ヘッジの有効性の判定は省略しております。

##### (4) 収益及び費用の計上基準

当社は、工作機械の製造、販売及び修理等のサービスの提供を行っております。

工作機械及び関連する部品の販売においては、契約条件に照らし合わせて顧客が製品等に対する支配を獲得したと認められる時点が契約の履行義務の充足時期であり、顧客への製品等の出荷時、据付時、貿易上の諸条件等に基づき収益を認識しております。

工作機械に関連するサービスについては、役務の提供の完了時点が履行義務の充足時期であり、当該時点において収益を認識しております。

## 会計方針の変更に関する注記

(会計基準等の改正等に伴う会計方針の変更)

### 1. 「時価の算定に関する会計基準」等の適用

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、計算書類に与える影響はありません。

### 2. 「収益認識に関する会計基準」等の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取る見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、一部の取引について、従来は製品の出荷時点で収益を認識しておりましたが、顧客が当該製品に対する支配を獲得したと認められる時点で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、当事業年度の期首の繰越利益剰余金に与える影響はありません。

なお、当事業年度の損益に与える影響もありません。

また、表示方法に変更はありません。

## 表示方法の変更に関する注記

(損益計算書関係)

前事業年度において、「営業外収益」の「その他」に含めておりました「保険解約返戻金」は、重要性が増したため、当事業年度より独立掲記しております。

## 会計上の見積りに関する注記

(繰延税金資産の回収可能性)

- ・当事業年度の計算書類に計上した金額(繰延税金負債) 25,740千円

なお、繰延税金資産78,167千円と繰延税金負債103,907千円を相殺した結果、繰延税金負債25,740千円を計上しております。

繰延税金資産に関する注記については、「連結注記表(会計上の見積りに関する注記)」に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

(製品保証引当金)

- ・当事業年度の計算書類に計上した金額 31,293千円
- ・識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

製品保証引当金に関する注記については、「連結注記表(会計上の見積りに関する注記)」に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

## 貸借対照表に関する注記

### 1. 担保に供している資産及びこれに対応する債務

#### (1) 担保に供している資産

建物	434,935千円
機械及び装置	68千円
土地	1,389,338千円
その他	47,945千円
計	1,872,287千円

#### (2) 上記に対応する債務

短期借入金	116,416千円
1年内返済予定の長期借入金	943,498千円
計	1,059,915千円

2. 有形固定資産の減価償却累計額 3,535,619千円

### 3. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

短期金銭債権	1,132千円
短期金銭債務	26,333千円

4. 前受金のうち、契約負債の金額は、以下のとおりであります。

契約負債	893,677千円
------	-----------

## 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

営業取引による取引高

売上高	22,809千円
販売費及び一般管理費	154,731千円

## 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	20,732	168,460	—	189,192

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

2021年5月24日の取締役会決議による自己株式の取得	168,200株
単元未満株式の買取りによる増加	260株

## 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

棚卸評価損	135,757千円
未払賞与	30,733千円
製品保証引当金	10,721千円
退職給付引当金	90,416千円
減損損失	306,810千円
税務上の繰越欠損金	246,727千円
その他	26,688千円
繰延税金資産小計	847,855千円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	△243,403千円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△526,285千円
評価性引当額小計	△769,688千円
繰延税金資産合計	78,167千円

(繰延税金負債)

資産除去債務に対応する除去費用	933千円
その他有価証券評価差額金	102,974千円
繰延税金負債合計	103,907千円
繰延税金負債純額	25,740千円

## 関連当事者との取引に関する注記

役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称 または氏名	所在地	資本金 または 出資金 (千円)	事業の内容 または職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当 事者との 関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
役員	武藤 公明	—	—	当社代表取締役社長 哈邁機械商貿 (上海)有限公司 董事  (株)KMエンタプ ライズ取締役	(被所有) 直接2.9 間接1.4	当社銀行借入 に対する 債務 被保証	当社銀行借入 に対する 債務 被保証	35,726	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注)当社は、銀行借入に対して当社代表取締役社長武藤公明より債務保証を受けております。  
なお、保証料の支払は行っていません。

## 収益認識に関する注記

収益を理解するための基礎となる情報は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記 4. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項 (4) 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

## 1 株当たり情報に関する注記

1 株当たり純資産額	605円66銭
1 株当たり当期純利益	153円93銭

## そ の 他 の 注 記

(財務制限条項に関する注記)

借入金のうち、1年内返済予定の長期借入金908,040千円のシンジケート・ローンについては財務制限条項がついており、当該条項は以下のとおりであります。

1. 2020年3月期決算以降、各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表上の純資産の部の金額を直前の決算期末日における連結の貸借対照表上の純資産の部の金額の70%以上に維持すること。
2. 2020年3月期決算以降、各年度の決算期の末日における単体の貸借対照表上の純資産の部の金額を直前の決算期末日における単体の貸借対照表上の純資産の部の金額の70%以上に維持すること。
3. 2020年3月期決算以降の決算期を初回の決算期とする連続する2期について、各年度の決算期における連結の損益計算書に示される経常損益が2期連続して損失とならないようにすること。なお、本号の遵守に関する最初の判定は、2021年3月決算期およびその直前の期の決算を対象として行われる。
4. 2020年3月期決算以降の決算期を初回の決算期とする連続する2期について、各年度の決算期における単体の損益計算書に示される経常損益が2期連続して損失とならないようにすること。なお、本号の遵守に関する最初の判定は、2021年3月決算期およびその直前の期の決算を対象として行われる。

なお、当事業年度において上記財務制限条項には抵触しておりません。

独立監査人の監査報告書

2022年5月13日

浜井産業株式会社  
取締役会 御中

**八重洲監査法人**

東京都千代田区

代表社員 公認会計士 齋藤 勉  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 渡邊 考志  
業務執行社員

業務執行社員 公認会計士 滝澤 直樹

**監査意見**

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、浜井産業株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、浜井産業株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

**監査意見の根拠**

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

**その他の記載内容**

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

**連結計算書類に対する経営者及び監査等委員会の責任**

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

独立監査人の監査報告書

2022年5月13日

浜井産業株式会社  
取締役会 御中

**八重洲監査法人**

東京都千代田区

代表社員 公認会計士 齋藤 勉  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 渡邊 考志  
業務執行社員

業務執行社員 公認会計士 滝澤 直樹

**監査意見**

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、浜井産業株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの第96期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

**監査意見の根拠**

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

**その他の記載内容**

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 計算書類等に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

## 監査等委員会の監査報告書 謄本

### 監 査 報 告 書

当監査等委員会は、2021年4月1日から2022年3月31日までの第96期事業年度における取締役の職務の執行について監査いたしました。その方法及び結果につき、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号ロ及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況に関し定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、以下の方法で監査を実施しました。

- ①監査等委員会が定めた監査等委員会監査等基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、会社の内部統制部門と連携の上、重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査しました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
- ②事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号イの基本方針及び同号ロの各取組みについては、取締役会その他における審議の状況等を踏まえ、その内容について検討を加えました。
- ③会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。なお、監査上の主要な検討事項については、八重洲監査法人と協議を行うとともに、その監査の実施状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

#### 2. 監査の結果

##### (1) 事業報告等の監査結果

- ①事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ②取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はありません。
- ③内部統制システムに関する取締役会の決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項はありません。
- ④事業報告に記載されている会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針は、相当であると認めます。事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号ロの各取組みは、当該基本方針に沿ったものであり、当社の株主共同の利益を損なうものではなく、かつ、当社の会社役員地位の維持を目的とするものではないと認めます。

##### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人八重洲監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

##### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人八重洲監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2022年5月17日

浜井産業株式会社 監査等委員会

常勤監査等委員 森田 淳一郎 ㊞  
監 査 等 委 員 政 木 道 夫 ㊞  
監 査 等 委 員 青 木 眞 徳 ㊞

(注) 監査等委員森田淳一郎、政木道夫及び青木眞徳は、会社法第2条第15号及び第331条第6項に規定する社外取締役であります。

以 上

## 株主総会参考書類

### 議案及び参考事項

#### 第1号議案 定款一部変更の件

##### (1) 提案の理由

「会社法の一部を改正する法律」(令和元年法律第70号)附則第1条ただし書きに規定する株主総会資料の電子提供制度の施行日が2022年9月1日とされたことに伴い、株主総会参考書類等の内容である情報について電子提供措置をとる旨及び書面交付請求をした株主に交付する書面に記載する事項の範囲を限定することができる旨を設けるものであります。

また、現行の株主総会参考書類等のインターネット開示とみなし提供の規定は不要となるため、これを削除するとともに、これらの変更に伴う効力発生日等に関する附則を設けるものであります。

##### (2) 変更の内容

変更の内容は次のとおりであります。

(下線は変更部分を示します。)

現 行 定 款	変 更 案
(株主総会参考書類等のインターネット開示とみなし提供) 第16条 当社は、株主総会の招集に際し、株主総会参考書類、事業報告、計算書類および連結計算書類に記載または表示をすべき事項に係る情報を、 <u>法務省令に定めるところに従い、インターネットを利用する方法で開示することにより、株主に対して提供したものとみなすことができる。</u>	< 削 除 >

現 行 定 款	変 更 案
<p style="text-align: center;">＜ 新 設 ＞</p> <p>(附則) (監査役の責任免除等に関する経過措置)</p> <p style="text-align: center;">＜ 新 設 ＞</p>	<p style="text-align: center;">(電子提供措置等)</p> <p><u>第16条</u> 当社は、株主総会の招集に際し、株主総会参考書類等の内容である情報について、電子提供措置をとるものとする。</p> <p style="padding-left: 2em;">2 当社は、電子提供措置をとる事項のうち法務省令で定めるものの全部または一部について、議決権の基準日までに書面交付請求した株主に対して交付する書面に記載しないことができる。</p> <p>(附則)</p> <p style="text-align: center;">(現行どおり)</p> <p style="text-align: center;">(電子提供措置に関する経過措置)</p> <p><u>1.</u> 変更前定款第16条（株主総会参考書類等のインターネット開示とみなし提供）の削除および変更後定款第16条（電子提供措置等）の新設は、2022年9月1日から効力を生ずるものとする。</p> <p><u>2.</u> 前項の規定にかかわらず、2023年2月末日までの日を株主総会の日とする株主総会については、変更前定款第16条（株主総会参考書類等のインターネット開示とみなし提供）はなお効力を有する。</p> <p><u>3.</u> 本附則は、2023年3月1日または前項の株主総会の日から3か月を経過した日のいずれか遅い日後にこれを削除する。</p>

**第2号議案** 取締役（監査等委員である取締役を除く。）5名選任の件

取締役（監査等委員である取締役を除く。）全員（4名）は、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、経営体制の一層の強化をはかるため1名増員して取締役（監査等委員である取締役を除く。）5名の選任をお願いするものであります。

取締役（監査等委員である取締役を除く。）候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する 当社の株式の数
1	むとうこうめい 武藤公明 (1970年7月29日生)	2004年2月 株式会社UFJ銀行（現株式会社三菱UFJ銀行）入行 2006年1月 株式会社三菱東京UFJ銀行（現株式会社三菱UFJ銀行）国際業務部調査役 2006年4月 同行退社 2006年5月 当社入社内部監査室部長 2006年6月 当社取締役社長付部長 2009年6月 当社常務取締役営業・企画担当 2010年6月 当社専務取締役 2011年4月 当社代表取締役社長 2013年6月 当社代表取締役社長兼営業本部長 2014年6月 当社代表取締役社長 現在に至る	100,860株
2	やまはたきよし 山畑喜義 (1955年11月16日生)	1978年4月 株式会社富士銀行入行 2002年7月 株式会社みずほ銀行審査第二部審査役 2005年5月 当社経理部長 2005年6月 当社取締役経理部長 2006年5月 当社常務取締役経理部長 2007年3月 株式会社みずほ銀行退社 2012年4月 当社常務取締役管理担当兼経理部長 2013年6月 当社取締役管理担当兼経理部長 2015年6月 当社常務取締役管理担当兼経理部長 現在に至る	900株

候補者 番号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する 当社の株式の数
3	おのづか たかし 小野塚 隆 (1959年2月12日生)	1980年4月 当社入社 2009年4月 当社技術部長 2013年6月 当社執行役員技術部長 2015年6月 当社上席執行役員技術部長 2016年7月 当社上席執行役員技術本部長 2018年6月 当社取締役技術本部長 2020年6月 当社取締役足利工場長兼技術本部長 現在に至る	100株
4	かしわ せ たか し 柏瀬 高志 (1959年5月14日生)	1982年4月 当社入社 2007年4月 当社東京営業部長 2013年6月 当社執行役員営業副本部長 2014年6月 当社上席執行役員営業本部長 2018年6月 当社取締役営業本部長 現在に至る	400株
5	※ せき や たか し 関谷 高志 (1963年12月4日生)	1984年4月 当社入社 2012年4月 当社生産管理部長 2015年6月 当社執行役員生産管理部長 2016年7月 当社執行役員生産本部長 2018年6月 当社上席執行役員生産本部長 2020年6月 当社上席執行役員足利工場副工場長兼 生産本部長 現在に至る	100株

- (注) 1. ※は新任の取締役候補者であります。
2. 各取締役候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
3. 当社は、役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が負担することになる損害賠償金、訴訟費用等につき、総額1億円までの限度で損害を当該保険契約により填補することとしております。候補者は、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。また、次回更新時には同内容での更新を予定しております。
4. 取締役の選任に関する監査等委員会の意見の概要は以下のとおりであります。  
監査等委員である社外取締役全員が出席する指名・報酬諮問委員会において、各候補者の資質や業務状況、取締役会の監督機能の実効性及び企業価値の向上等の観点から検討を行いました。監査等委員会は、この指名・報酬諮問委員会での審議が適切になされており、かつ、再任の各候補者については、高い経営手腕を発揮し、当社の業績向上に大きく貢献していることから、また新任の候補者については、深い専門知識と豊富な経験を有していることに加え、取締役としての適格性も備えていることから、各候補者を取締役に選任することが適切と判断しました。

### 第3号議案 監査等委員である取締役3名選任の件

監査等委員である取締役全員（3名）は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、監査等委員である取締役3名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案の提出につきましては、監査等委員会の同意を得ております。

監査等委員である取締役候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する 当社の株式の数
1	もり たじゆんいちろう 森田 淳一郎 (1955年6月25日生)	1979年4月 安田生命保険相互会社（現明治安田生命保険相互会社）入社 2010年4月 明治安田損害保険株式会社アンダーライティング部長 2014年4月 同社取締役アンダーライティング部長 2016年6月 当社取締役（監査等委員） 現在に至る	0株
2	まさ きみち お 政木 道夫 (1961年2月20日生)	1987年4月 司法修習生（41期） 1989年4月 東京地方検察庁検事 1990年4月 山形地方検察庁検事 1992年3月 新潟地方検察庁長岡支部検事 1994年4月 東京地方検察庁検事 1995年4月 横浜地方検察庁検事 1996年4月 東京地方裁判所裁判官 1999年4月 東京地方検察庁検事 2003年4月 名古屋地方検察庁検事 2003年7月 前橋地方検察庁高崎支部長 2004年3月 検察官退官 2004年4月 弁護士登録（第一東京弁護士会） シティユーワ法律事務所所属弁護士 2013年6月 当社取締役 2016年6月 当社取締役（監査等委員） 現在に至る	0株

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する 当社の株式の数
3	あおき まさ のり 青木 眞徳 (1946年5月13日生)	1969年4月 東京芝浦電気株式会社（現株式会社東芝）入社 2001年4月 富士機械製造株式会社（現株式会社F U J I）入社 2002年6月 同社取締役執行役員 2004年6月 同社取締役常務執行役員 2009年6月 同社取締役専務執行役員 2010年6月 同社取締役副社長執行役員 2011年5月 株式会社アドテック 富士代表取締役社長 2015年6月 同社取締役会長 2015年6月 サンワテクノ株式会社取締役 2016年5月 株式会社アドテック 富士会長 2018年6月 当社取締役（監査等委員） 現在に至る	0株

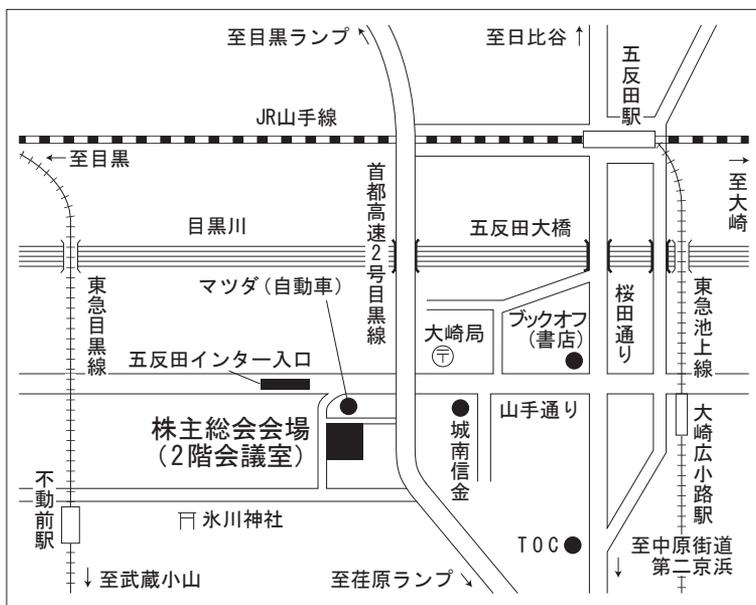
- (注) 1. 各監査等委員である取締役候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 当社は森田淳一郎氏、政木道夫氏及び青木眞徳氏との間で会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく責任の限度額は、法令が規定する額としております。3氏の再任が承認された場合、当社は3氏との間で上記責任限定契約を継続する予定であります。
3. 当社は、役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が負担することになる損害賠償金、訴訟費用等につき、総額1億円までの限度で損害を当該保険契約により填補することとしております。候補者は、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。また、次回更新時には同内容での更新を予定しております。
4. 森田淳一郎氏、政木道夫氏及び青木眞徳氏は社外取締役候補者であります。なお、当社は森田淳一郎氏、政木道夫氏及び青木眞徳氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
5. 森田淳一郎氏につきましては、保険業界での業務における豊富な経験と見識を当社の監査に活かしていただくため、政木道夫氏につきましては、弁護士としての経験・識見が豊富であり、法令を含む企業社会全体を踏まえた客観的視点で、独立性をもって当社の経営の監視をするのに適任であること、青木眞徳氏につきましては、富士機械製造株式会社（現株式会社F U J I）の元取締役であり、企業経営者としての豊富な経験、幅広い知見を有しており、企業全般の監視と有効な助言を期待できるため、それぞれ社外取締役として選任をお願いするものであります。
- なお、森田淳一郎氏及び青木眞徳氏は上記の理由により、また、政木道夫氏は社外取締役となること以外の方法で会社経営に関与された経験はありませんが、上記の理由により、社外取締役としての職務を適切に遂行いただけるものと判断しております。
6. 森田淳一郎氏の当社社外取締役就任期間は本総会終結の時をもって6年（うち監査等委員である取締役就任期間は6年）となります。なお、政木道夫氏の当社社外取締役就任期間は本総会終結の時をもって9年（うち監査等委員である取締役就任期間は6年）となります。また、青木眞徳氏の当社社外取締役就任期間は本総会終結の時をもって4年（うち監査等委員である取締役就任期間は4年）となります。

7. 森田淳一郎氏、政木道夫氏及び青木眞徳氏は当社または当社の子会社の業務執行者または役員であったことはありません。
8. 森田淳一郎氏、政木道夫氏及び青木眞徳氏は当社の親会社等ではなく、また、過去10年間に当社の親会社等であったこともありません。
9. 森田淳一郎氏、政木道夫氏及び青木眞徳氏は当社の特定関係事業者の業務執行者または役員ではなく、また、過去10年間に当社の特定関係事業者の業務執行者または役員であったこともありません。
10. 森田淳一郎氏、政木道夫氏及び青木眞徳氏は当社または当社の特定関係事業者から多額の金銭その他の財産を受ける予定はなく、また、過去2年間に受けていたこともありません。
11. 森田淳一郎氏、政木道夫氏及び青木眞徳氏は当社の親会社等、当社または当社の特定関係事業者の業務執行者または役員の配偶者、三親等以内の親族その他これに準ずるものではありません。
12. 森田淳一郎氏、政木道夫氏及び青木眞徳氏は過去2年間に合併、吸収合併、新設分割もしくは事業の譲受けにより当社が権利義務を承継した株式会社において、当該合併等の直前に業務執行者であったことはありません。

以 上

# 定時株主総会会場ご案内図

会場 東京都品川区西五反田五丁目 5 番15号  
当社本店 2階会議室  
電話 (03)3491-0131 (代表)



- 五反田駅<JR山手線・都営浅草線>より徒歩にて約10分です。
- 大崎広小路駅<東急池上線>より徒歩にて約7分です。
- 不動前駅<東急目黒線>より徒歩にて約5分です。